

初めての教科書ができること

平成三十年度から、「道德の時間」が「特別の教科道德」（道德科）となります。教科になることによって、これまでと変わるところもあれば、変わらないところもあります。それらを踏まえ、子どもたちが生き生きと学べるような、先生方が安心して指導できるような教科書を作りたいと考えました。

光村図書「道德 きみがいちばんひかるとき」は、先生方に安心してお使いいただけるよう、三つの工夫で「見える」教科書を実現します。

安心 1

スムーズに授業ができる、
段階を追った構成の
工夫

✓ 道德科の授業の姿が
「見える」!

安心 2

授業での学びが、
他教科や生活に生かせる
ことを促す工夫

✓ 学びのつながりが「見える」!

安心 3

無理なく評価が
できる工夫

✓ 子どもの変容が「見える」!



安心1

スムーズに授業ができる、
段階を追った構成の
工夫

■導入

キャラクターの呼びかけにより、
無理なく学習に入ることができます。
児童が教材に興味をもち、主体的
に教材と関われるよう工夫しました。



〈例〉
最近、君がだれかにした親切は、
どんなことかな。

■「考えよう」(めあて)

太字で、学習の「めあて」を示しました。
この「めあて」を児童と共に確認することで、児童が課題をはきり
と意識し、主体的に学びに向かうことができます。

■「考えよう」(問い)

主に三つの問いを示しています。これらを活用し、授業を構成
していただくことで、無理なく授業が展開できます。

① 道徳的問題を明らかにする問い (課題の設定)

教材における道徳的な問題が明らかになる問いです。
この問いによって、児童が同じ共通理解のもと、道徳的な価値につ
いて考えていくためのスタートに立つことができます。

② 道徳的価値について考えを深める問い

道徳的な価値についての理解を深める問いです。①の問いで明らか
になった問題を巡って、道徳的な価値に迫れるよう、児童に問いかけ
ます。この問いに基づいて議論することで、道徳的な価値への理解や
自覚が深まります。

③ 自分に引きつける問い・テーマ的な問い

価値の一般化を意識した問いです。教材の特徴に応じて、道徳的価
値を自分や日々の生活に結び付ける問いや、道徳的な価値そのもの
についてを問うようなテーマ的な問いを配しています。

■「つなげよう」

道徳の実効性が求められる中、二年以上には、キャラク
ターの呼びかけで、道徳の時間の学びが次の行動につなが
るよう促す工夫をしています。

- ・ 他教科で学習する内容との関連付け
 - ・ 特別活動との関連付け
 - ・ 関連する内容をもつ図書の紹介
 - ・ 日常生活への意識付け
- などを通して、計画的・発展的な学習ができるように配慮
しました。

安心2

授業での学びが、
他教科や生活に生かせる
ことを促す工夫

他教科の学びや
日々の生活へ

めあての確認・問いに
沿って、考えを深める

導入

教材

児童に
問いかけます。



こころん



5年 P.114 「道案内」

考えよう

てびき

めあて
親切な行いをするときに
大切なことは、何だろう。

問い

「やっぱり、いいことをした後は
気持ちがいいなあ。」とうなずき合ったとき、
二人は、どんなことを考えていたでしょう。
「ぼくたち、少し足りなかったのかな。」
と言ったとき、木村くんは、
どんなことを考えていたでしょう。
● 親切な行いをするとき、どんなことに
気をつければよいのでしょうか。

つなげよう

学びを
つなげます。



きらりん

〈例〉

だれかに親切にしてあげたいって
いう気持ちは、大切にしたいね。
どういふ行動ができるか、
これからも考えていこう。



✓ 道徳科の授業の姿が「見える」！
✓ 学びのつながりが「見える」！

安心 3
無理なく評価が
できる工夫

「学びの記録」

一年間を四つの「学習のまとめ」
「詳細は本書P.10参照」に区切り、
それぞれのまとめりの終わり、四
か所（二年は三か所）に、「学
びの記録」を設けました。

書きためることで、児童が自
分の学びの軌跡を一目で見渡す
ことができます。
自分の成長を実感することが
でき、自尊心を育むことにも
つながります。

「学習のまとめり」の区切り
ごとに、そこまでの自分の学び
の変化や成長を振り返ることが
できるように構成しました。



児童が、毎時間、どんなことを学んだのかを書き留める
ことができます。書く活動に時間が取られすぎないように、
また、なかなか書き進められない児童にも無理のない分量
で書くことができるよう、スペースに配慮しました。

6年 P.38 「学びの記録」

「学びの記録」を通して、教師が長期的に児童の成長を見取れるように配慮しており、大きく
りな評価の材料としての活用が可能です。保護者が家庭で子どもの学びを確認することもできます。
一・二年は、発達段階を考慮して、三つの観点を示し、色を塗る形式を取っています。三年以
上は、書きやすさと見やすさを考え、見開きとしました。

✓子どもの変容が「見える」!